

## 7-2 甲状腺機能の異常〔こうじょうせんきのうのいじょう〕

身体の代謝に係る内分泌物質である甲状腺ホルモンは、加齢と共に分泌が低下し、高齢者で甲状腺機能低下症になることがある。

甲状腺機能低下症の原因は、加齢の他に、甲状腺手術の後遺症、橋本病、低栄養状態、肝硬変、腎不全などでも起こる。

甲状腺機能の低下の反対に甲状腺機能亢進症がある。原因として多いのはバセドウ病。

主な症状	<p><b>甲状腺機能低下症</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 低下の程度が軽いと症状はあらわれない。</li> <li>● 重度になると顔面浮腫、悪寒、言動緩慢といった症状が現れる。</li> <li>● 記憶障害や認知症の症状が出ることもある。</li> </ul> <p><b>甲状腺機能亢進症</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 心臓の活動が上がって頻脈になる。</li> <li>● エネルギー消費の亢進により多食や体重減少、多飲多尿、発汗、高血糖などが現れる。</li> <li>● 抜け毛、鬱、不安感、イライラ、震え、暑さに耐えられないなどもある。</li> <li>● 高齢者の場合、こういった症状が見られないこともある。</li> </ul>
------	---

生活上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 免疫力が低下するため風邪等の感染症にかからないように気をつける。</li> <li>● 浮腫がでるが薬が減ると治まる場合が多い。</li> <li>● 疲れやすいため、規則正しい生活をし、適度な運動と休養を心がける。</li> </ul>
---------	--

ケアマネジメントのポイント	<p>&lt;支援者の留意点・視点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 介護者は、活動や反応がゆっくりになることが症状だと理解して、利用者のペースを尊重することが大切。</li> <li>● 適度な運動と休養がとれるようにする。</li> <li>● 甲状腺機能低下症と認知症は症状が似ており、認知症と勘違いしてしまうこともあり、早期治療を行なうことができず、悪化してから気付くこともある。そのためにゆっくりとした行動となったり、ボーっとしている症状などがみられた場合には早めに医療従事者に報告する。</li> </ul>
---------------	--

代表的な薬	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 甲状腺ホルモン製剤（チラーヂンなど）</li> <li>● 抗甲状腺ホルモン製剤（メルカゾール、チウラジールなど）※定期的に検査</li> <li>● ヨウ素（ヨウ化カリウムなど）</li> </ul>
-------	--